



八代基次
議員

広陵町地域公共交通計画 について

問 2月24日の前記計画書（案）と平成23年度施政方針を拝見の上、次の質問をいたします。(1)公共交通について本年の施政方針には「イズミヤ広陵店と協議させていただく」との記述はないがなぜか。(2)バス車輛購入該当分程度の3,000万円の寄付はどうなっているのか。(3)昨年9月に実施された地区別懇談会についての感想は。また、この計画書が確定し実行段階に入るとき、また地区懇談会を開催するのか。

平岡町長 (1)イズミヤとの協議は22年度施政方針のとおり協議が済んでいます。(2)バス購入の寄付金は納入していただきます。(3)懇談会では、バスを本当に走らせてほしい。別段走らなくてもよい。税金の無駄使いになる等々さまざまな意見があった。公共交通は民間収益事業から自治体の地域公共交通への関与が当然とも考えられ、これを念頭に協議いた

き、実証運行の手続きを進めています。また、懇談会以降の進捗情報はホームページで、今後その他の媒体においても周知いたします。

防災士の育成と組織化に ついて

問 私と松浦議員は奈良県の第1回防災士研修に自主参加し、資格を取得、災害に強い安全、安心の町づくりに取り組んできた。町長も、熱心に防災力を強める施策を推進されていることに敬意を表します。防災士の育成と組織化は非常に重要である。

(1)防災士の資格を取得している住民と職員数は。(2)本年度の育成講座の受講者数は。(3)広陵町防災士会（仮称）の組織化が必要では。

平岡町長 (1)22年12月末現在で防災士の資格を取得された町民の方は議員3名を含め46名、町職員は8名です。(2)2月の町単独の防災士育成講座では46名の町民の方と26名の町職員が資格に挑戦しています。(3)今年の試験の結果を見て、本人の意向を確認の上、体制を整えていきたい。

防災士がよりその能力を発揮するには、相互の協力が不可欠であり、知識を更新する研修、ネットワークの整備、関係団体の協力も必要である。



坂口友良
議員

地区計画に障がい者の親の 願いはこめられたか

問 町原案では障がい者の生涯の住まいであるグループホーム等が建てられない案であり、保護者には驚きと疑問が上がり、50名からの要望書、2回にわたったの障がい者本人をも参加しての町長との懇談会、建てられない理由の質問書の提出や議会にも要望書が提出されてきた。障がい者本人に直接影響の与える計画が当事者に知らされずに進まれたことに保護者の不信は当然のことである。今回の計画に親の願いはこめられた案になったのかを問う。

平岡町長 50名余りの意見については、都市計画審議会委員さんにもご報告をさせていただいた。保護者のみなさんと懇談会を行い、現状や将来における不安なことや町内で施設を設けてほしいなど要望をいただいた。今後も現在お住まいの方々については、他の地域へ誘導するのではなく、引き続き生活していただける

ように対応してまいりたい。

平成23年度予算より町税 収入増の策を問う

問 国の予算をみても、税収以上の公債で予算原案を組んでいるが、いつまでも続かない。本町はコツコツと地道に収入対策をとるべきである。幸いにも人口は順調な増加がみられ、家屋の固定資産税の収入アップも見込まれている。イズミヤさんの好評もみられ、商工業の発展も期待できるものがある。収入増策はどうか。

平岡町長 本町においては、固定資産税の税収は見込めるものの町税全体としては、まだまだ、厳しい状況は続くものと考えられる。増加策については、企業誘致による雇用の拡大、地域振興など経済効果は多大であり、県と連携しながら積極的に誘致を図ってまいりたいと考えている。今、町は企業立地に適切な支援をすることで決断を促すことが得策と思う。

